

ネットワンシステムズ株式会社様



eXpert Operation Center

PSFT を使ってネットワーク監視・保守を効率化



ネットワンシステムズ株式会社は、ネットワークの導入から構築・運用・保守・監視まで一貫したサービスを提供しています。また、各企業のネットワーク運用環境を踏まえ、改善から新インフラの構築まで提案することもできることから、多くのお客様からの支持を獲得しています。

ネットワンシステムズについて

ネットワンシステムズのゴールは、「すべてのステークホルダーから信頼され支持される企業」＝アドマイヤード・カンパニーになることです。

ネットワングループ全社のソリューションやサービスに込められている想いは、顧客にとって最適な ICT 基盤を構築することであり、それを通じて顧客のビジネスを支援することです。そのために、ICT 市場のリーダーとして常に最先端技術の習得につとめ、先進性の高い製品を組み合わせた、品質の高いソリューションとサービスを提供しています。

社名	ネットワンシステムズ株式会社
事業内容	ネットワークインテグレーション事業 1. ネットワークコンサルティング 2. ネットワーク設計・管理 3. ネットワーク設備の設置・工事 4. ネットワーク機器の販売 5. ネットワークコンピューティング・サービス 6. 運用支援サービス 7. 教育サービス
代表取締役 社長執行役員	吉野 孝行
創立	1988年2月1日
資本金	122億79百万円
売上高 (連結)	1,243億70百万円 (2010年3月期)
従業員数 (連結)	1,937名 (2010年3月31日現在)
本社所在地	東京都品川区東品川 2-2-8 スフィアタワー天王洲

「止めてはならない」24時間稼働の運用監視センター

ネットワンシステムズが誇るエキスパートオペレーションセンター (XOC:eXpert Operation Center) は、ネットワーク、セキュリティ、サーバ/ストレージ、IP 電話、システムのリモート運用管理/お客様の情報資産管理をネットワンシステムズのエキスパートエンジニアが代行する、統合的かつ集約的な「高付加価値運用サービス」の拠点です。いったんトラブルが起こると、XOC とお客様の間では、システムのログファイル、作業手順に関わる指示書などが頻りにやりとりされます。これらはお客様の情報が含まれるため機密性が高く、容量も大きくなりがちです。

メールでは管理しきれない

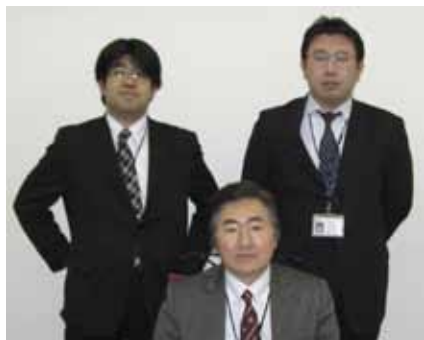
しかし、24時間体制でお客様のネットワークを監視するということは、途中で担当者が変わると言うことです。担当者が交代しても高いサポートレベルを維持するためには、対応中のインシデントやそれまでの履歴、その時点でペンディングとなっている項目など、担当者間で引き継ぎが完璧に行われなければなりません。

当初は、お客様とのやりとりを電子メールベースで行い、ログや対応指示のファイルは ZIP で圧縮して電子メールに添付して、やりとりを全て担当者間で共有するという方式を採っていました。しかしこの方法では、やりとりのたびにメールの履歴がどんどん増えていき、メールデータがすぐに巨大になると同時に、不要なやりとりまで全て含まれているため、検索性が著しく損なわれ、履歴を把握するのが難しくなります。そのため、メールでのコミュニケーションには改善の必要がある、という結論でした。

その次に試したのが、インターネット上のファイル共有サービスでした。パスワードで保護されたインターネット上のストレージスペースに、お客様毎にディレクトリを作成し、ログファイルや手順書をそこにアップロードし、やりとりを行うという方法です。

この方法に移行したことにより、メールによる方式よりも経緯や現状の把握が容易になり、引き継ぎの時間短縮や正確性の確保が可能になったということです。

しかし、この方式も、完全ではなかったのです。ネットワンシステムズ株式会社サービス事業グループ運用管理サービス本部サービスシステム開発部 XOC インフラチームの星野 明氏は「特にセキュリティが弱いというわけでは無かったのですが、弊社の運用形態には合わなかった、ということでしょうか。」と明かしてくれました。



ネットワンシステムズ株式会社
サービス事業グループ運用管理サービス本部
サービスシステム開発部
XOC インフラチームの皆様



XOC (eXpert Operation Center) とは

高度化・複雑化するネットワークへの要求、ユニファイドコミュニケーション等の活用シーンの多様化、企業の情報資産管理強化の為に増大し続けるサーバーやストレージ環境、これら情報資産への絶え間ないセキュリティ上の脅威。ネットワークシステムの運用に従事する組織の管理業務は幅および奥行き共に拡大し、煩雑化し続けています。また、これと比例してシステム運用に関わるコストの増大も企業経営にとっては大きな課題となっています。XOCはこれらの課題への“解答”を提供し、システム運用にかかる負担からお客様の大切な資源を解放、運用に掛かる全体コストの最適化を実現。これにより、お客様の企業内組織が本業に回帰するためのご支援を通じて、お客様の更なる発展に貢献致します。

©2011 Proofpoint, Inc. Proofpoint Protection Server, Proofpoint Messaging Security Gateway, Proofpoint Spam Detection, Proofpoint Virus Protection, Proofpoint Digital Asset Security, Proofpoint Regulatory Compliance, Proofpoint MLX, Proofpoint Dynamic Reputation, および Proofpoint on Demand は、米国およびその他の国々における Proofpoint, Inc. の商標または登録商標です。この文書に含まれるその他すべての商標はそれぞれの所有者の所有物です。

ディレクトリ単位の運用では、どうしてもファイルの消し忘れがあったり、不用意な上書きなどが起こる可能性があり、お客様とのやりとりをもっと安全にしたかったとことです。また、数百のお客様を抱える XOC では、ファイルを間違えたディレクトリに置いてしまう、といったことが起きかねず、運用面のリスクも指摘されました。ファイルは暗号化されているものの、見過ごしには出来ない問題です。

PSFT でお客様との間で情報を安全かつ確実にやりとり

そこでネットワンシステムズでは、数百社に及ぶ顧客企業との情報交換のために、PSFT (Proofpoint Secure File Transfer) アプライアンスを導入しました。PSFTを採用した理由は、①ファイルを転送する際に、特別な操作無しに自動的に暗号化してくれるため、暗号化のし忘れなどのうっかりミスを防ぐことができること、②送信するファイル毎に専用の URL が発行されるため、間違った宛先に送られることが無いこと、③ PSFT 上の履歴を追うことで、余計な情報に悩まされることなく、経緯を簡単に把握できること、などです。

期待を上回る簡単さ

「PSFTの導入前に、『暗号化が自動で出来るので便利だろうな。』とは思っていました。しかし、思った以上に簡単で便利なので、びっくりしています。」という星野氏。それまで使っていた暗号化ツールが煩雑な操作が必要だったせいもあり、「何もしなくても暗号化してくれる、というのがこんなに便利とは想像できませんでした。」ということです。

将来は運用対象を広げて誤送信対策にも

本格運用を開始したばかりの PSFT ですが、試験運用中から「これは便利。」「シンプルでわかりやすい。」など、評判は上々でした。「すぐに皆 PSFT での運用になれてしまうでしょう。」と、星野氏は語ります。

そんな星野氏が次に視野に入れているのが、Proofpoint の iDLP です。iDLP は、「送信後に取り消せる誤送信対策」を謳っていますが、PSFT を使うと、アップロードしたファイルを無効化することにより、万が一誤送信してしまった場合でも影響を最小限に抑えることができるため、XOC での運用以外にも、社員が使う通常の電子メールのやりとりにも活用できるのではないかと考えているということです。Proofpoint の調査によると、誤送信に気づくのはたいていの場合、送信ボタンを押した直後だという結果が出ています。そうすると、アップロードしたファイルを消去する対策でも十分な効果が見込めます。「特別なソフトや機器を追加しなくても、運用面の工夫で誤送信対策ができるのは画期的です。少し落ち着いたたら、是非検討したいですね。」という星野氏。PSFT の活用分野はどんどん広がりそうです。



XOC (eXpert Operation Center)

proofpoint™

お問い合わせ

日本ブルーポイント株式会社

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-5-2 ビュレックス麹町

TEL : 03-5210-3611, FAX : 03-5210-3615

Email : sales-japan@proofpoint.com

URL : http://www.proofpoint.co.jp